

雲仙市の景観を守り育てるために

雲仙市の景観計画では以下のように定めています。

●取り組みの方針

「雲仙市ならではの風景」を

- ①構成している要素を保全、活用します。
- ②阻害している要素を改善します。
- ③活用するための「わかりやすさ、行きやすさ」に配慮します。
- ④引き立たせる戦略を持った計画を推進します。
- ⑤市民が守り・育てていくため、協働によって取り組みます。

●景観計画の区域

雲仙市全域が景観計画区域です。

●重点区域の指定

景観計画区域のうち、本市の有する貴重な特色が象徴的に現れ、景観まちづくりの推進に関する施策が特に必要と認められる区域を重点区域として指定し、重点的に景観形成施策を推進します。

※今後、指定に向けて、検討を進めます。

●届出が必要な行為

市域全域（重点区域を除く）の良好な景観の形成のため、届出対象行為およびその基準については、以下のように定めています。

届出を必要とする行為の例

- ・大規模建築物
高さ13mを超えるもの
床面積1,000㎡を超えるもの
- ・大規模工作物
高さ13mを超えるもの
- ・その他
開発区域の面積が3,000㎡以上のもの

行為の基準の例

- ・山並みや田園の広がる場所及びこれらに隣接する場所、水辺や歴史・文化的資源に近接する場所では、特にこれらとの違和感を与えない形態意匠とする。
- ・住宅地・温泉観光地といったまちなみが形成されている場所は、景観の特性を踏まえその場所にふさわしいまちなみの連続性創出に配慮する。
- ・道路等の公共空間に面する部分は特に通りからの見え方に配慮し、立地特性にふさわしい魅力ある通り景観の創出に配慮する。
- ・その他、建築物・工作物の配置、形態・意匠、使用素材、色彩や開発行為における土地の形状及び緑化について、基準を定めています。

問い合わせ先

雲仙市 観光物産まちづくり推進課
〒859-1107 長崎県雲仙市吾妻町牛口名714番地
TEL 0957-38-3111/FAX 0957-38-3514

雲仙市の景観まちづくり

～雲仙市景観計画～

～雲仙岳より連なる、恵み豊かな大地と海、

悠久の歴史にはぐくまれた雲仙市ならではの風景を守り、育て、描く～

「美しい雲仙岳、恵み豊かな有明海と橘湾、悠久の歴史にはぐくまれた雲仙市」と市民憲章に謳われているその美しさは、来訪者の足を止め、興味を抱かせ、雲仙市の印象として、その記憶にぎざまれます。

私たちは、この景観の美しさを自覚し、豊かな大地と輝く海を活かし、たくましい郷土づくりへ向けて、「雲仙市ならではの風景」を守り、育て、誇りある雲仙市を発展させたいと思います。

雲仙市景観計画の目指すべき取り組みの方向性 → 景観まちづくりによる雲仙市全体の活性化

この計画は、わがまち雲仙の景観を維持・継承・改善するための様々な取り組みの方針を定めています。この計画を具体化することで、様々なまちづくり活動の一層の強化につながり、さらには、地域の活性化や交流人口の拡大、定住促進、観光の振興にもつながります。市民一人ひとりが、雲仙市ならではの風景を再発見し、景観まちづくりに参画し、その活動の輪を広げていくことを願っています。

雲仙市ならではの景観まちづくりイメージ

営みを感じる自然的景観



海に向けて開く田畑



雲仙岳の麓に広がる馬鈴薯畑



台地に広がる牧場



扇状に広がる水田

歴史や伝統を感じる文化的景観



歴史的なまちなみ



歴史を感じる護岸がある海辺



生業の姿を特徴づける漁港



古くからの営農を守り続ける棚田

賑わいを感じるまち景観



海沿いの小浜温泉街のまちなみ



山あいの雲仙温泉街のまちなみ



玄関口としての港



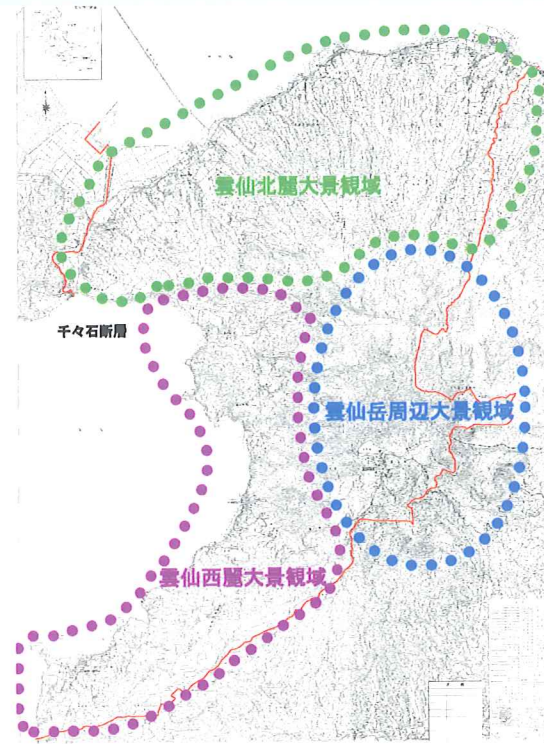
海岸沿いの国道沿道の緑

雲仙市は雲仙岳を頂点とする変化に富んだ地形による3つの大景観域に分けることができ、山から海に至る半島特有の自然の骨格を形成していることが特性として捉えられます。

普賢岳、雲仙地獄といった雄大な自然景観を有し、山岳信仰の象徴的存在として、市民だけでなく世界に知られる雲仙岳周辺の地域です。

千々石断層を境に、雲仙岳北麓の肥沃でなだらかな丘陵地帯で、周辺には広々とした田園地帯が広がる地域です。

雲仙岳西麓は山地の間にある狭い傾斜地を中心に、美しい棚田、段畑等を含む田園景観が多くみられる地域です。



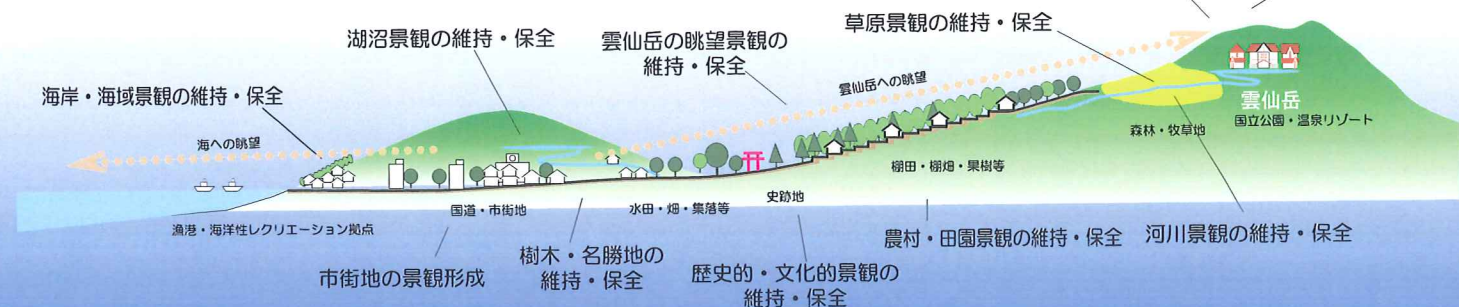
先人が守り育ててきたすぐれた景観資産を、市民の共有財産としてとらえ、景観まちづくりの中で活かしていく。

国立公園区域内の自然保護だけに限らず、かけがえのない豊かな自然環境を守り、責任をもって次世代に繋いでいく景観まちづくりを行っていく。

景観まちづくりを通して、個性豊かな文化とうるおいにあふれた生活を支えるふるさと環境を創造していく。

生活環境と最も密接な関係を持つ市民を中心とした自主的な景観まちづくりを行政が支援、助成していく。

建設、維持管理、改変や除去という行為の限らない組み合わせによって、新しい対応が求められる景観まちづくりを丁寧に工夫し、改善していく。



その１：重点区域候補地／既に景観的な取り組みが開始されている場所（図中の ）

①神代小路地区 歴史を感じるまちなみ 佐賀鍋島藩神代領の陣屋跡である「鍋島邸」を中心に、近世に建てられた「伝統的武家屋敷」、明治期に建てられた「近代和風建築」など当時の面影を色濃く残し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。	②雲仙岳と岳の棚田地区 農の営みが息づく文化的景観 約700枚の棚田が雲仙岳西麓の斜面に張りつくように広がる。棚田米の産地として有名で、現在重要文化的景観の選定に向けて、保存管理計画の策定が進められ地域と一体となった景観保全の取り組みがはじまっている。	③雲仙温泉街地区 世界的に有名な山あいの温泉地 国際的な観光地として世界的に知名度が高く、自然公園法、街づくり協定等の修景基準に基づき、統一感のあるまちなみが形成されている。
---	--	---

その2：先導的に取り組む地区（図中の○）

橘湾に面した海沿いの温泉地として親しまれ、眺望を意識して立ち並ぶ温泉旅館からは白い湯けむりがたちあがり、温泉地の景観を形成している。

吾妻、愛野町の山間地の台地では、肥育牛や養豚などが行われており、広々とした牧草地の景観を呈している。

自然を背景にして、漁船が停泊している漁港の風景は、雲仙市の代表的な産業景観のひとつである。集落を見下ろす海への眺望と一体となった眺めは特徴的な景観である。

昭和2年から昭和13年まで小浜～愛
野間を結ぶ鉄道として利用されていた
温泉鉄道跡。道の両側から緑豊かな
木々が生き茂り、「緑のトンネル」として
親しまれている風景である。

雲仙市の陸の玄関口である国道沿いに広がるじゃがいも生産を中心とした畑地。コスモス、菜の花など景観作物を用いた季節の演出が盛んに行われている。

山の頂上まで続く急傾斜の坂道に耕作された雄大な農地が並ぶ自然の風景は、優れたものを有している。平成20年に長崎県の「だんだん畑十選」に2地区が選定された。



その3：地点やルート（図中の●●）

国道、県道、相互の主要交差点／多比良港／牧場の里あづま展望台／岳の棚田展望台／愛野、千々石展望台／絹笠山（サンセットヒル）
南串山の棚畑展望台／仁田峠展望台
小浜鉄道跡／国道57号／国道251号／国道389号／雲仙グリーンロード（広域農道）／主要地方道、一般県道